

実り多き秋



農業大学校校長
海野 清

秋の深まりとともに、農場の収穫は終盤に入り、二年生の多くが就農や就職先の内定を受けるなど学びの成果としての収穫期を迎えています。

月の発表会までには、農大二年間の集大成(卒論)に相應しい水準に仕上がることを期待しています。

一年生は、県内各地域の先進農家に二五日間泊まり込みで農作業等を体験する「現地体験実習」を終え、遅しくなって帰校しました。実習発表会では、先進農家の生活や経営感覚に触れ、多くを感じ取り、自らを素直に振り返るなど成長した姿がありました。

さて、本校は創立百周年という記念すべき節目を迎え、日本一の農大を目指し、二六年度からの実践経営者コースの新設準備や、教育環境の整備に取組むなど、新たな一歩を踏み出したところです。

二年生は、自らテーマを設定し、主体的に学ぶ「プロジェクト学習」の成果のまとめが追い込みに入っています。十二

今年は、春先の低温、夏場の猛暑少雨が続き、農作物への影響が心配されましたが、概ね順調に生育し、農大でも収穫が真っ盛りです。十二月の「農大祭」には、学生が丹精込めて育てた農産物を味わって頂きたいと思っています。

農業大学校創立100周年記念式典開催

10月25日、長野市内のメルパルク長野において、阿部知事の出席の下、新たな農大の門出に向け、農業大学校創立100周年記念式典が盛大に開催されました。参加した農大生は、松代の自啓寮の寮歌、小諸の旧清風寮の寮歌を諸先輩とともに元気に歌い、自分たちが100年に積み重なる新たな歴史の一頁を作っていることを実感していました。





中央が塩澤さん、右が同窓会長



十月二日、中村武文農業大学校同窓会長をはじめ、農大創立百周年記念事業実行委員会役員及び多くの関係者の参列の下、農大創立百年を記念する「石碑」の除幕式が行われ

記念碑の建立 土塊百年緑永遠（つちくれひやくねんみどりとわ）

小諸キャンパスのグラウンドの脇に、歴史の重みを感じさせる門柱があります。この門柱は昭和一三年三月の修練農場の卒業生たちが寄贈したものです。ずっと灌木や草の陰に埋もれていましたが、百周年に合わせて藪がきれいに切り開かれ、当時の校門からの道も散策路として設けられました。研修生から愛されることでしょう。

門柱の修復



松本蟻ヶ崎高校 書道パフォーマンス



「土塊百年緑永遠」の文字を揮毫された大澤逸山氏の御縁で、松本蟻ヶ崎高校の書道部が行った書道パフォーマンスのビデオも披露されました。女子高生たちが元

気に「人類が生きる広大な大地で。僕は命を繋いでいく」と書きあげると会場の参加者も感動していました。



農と食の力に見城美枝子さんの講演

記念式典では「農と食の力」と題してジャーナリスト見城美枝子さんの記念講演が行われました。食生活が欧風化したアフリカのマサイ族が肥満したことやステイブ・ジョブズの新製品開発への情熱等多様な話題を盛り込みながら女性の視点で、食と農業の大切さを訴えられました。同窓生とともに講演を聞いた学生たちも自分たちの学びの意味を改めて確認していたようです。

現地体験実習と発表会

九月三日から二七日まで、一年生は恒例の現地体験実習を無事終え、十月二十三日には、実習成果の発表会が開かれました。学校の授業とは違った他人の家の釜の飯を食べることが学生たちを大きく成長させていることがわかります。



農家とともに 上伊那農業改良普及センターにて

学びの柱のひとつである現地体験実習は現在の二五日から来年度からは四五日へとさらに充実強化されます。

ました。「土塊百年緑永遠」を撰文されたのは、昭和二十七年卒業の下伊那郡出身の塩澤義男さんです。

「人間を支えるのは緑である。そして、緑は土があつてこそ創られる」土の大切さを切々と語られる塩澤さんは、伝習農場の講義で「soil」が土であることを当時の教官から教わり、その一言が半世紀以上も心に占めてきたそうです。当時、土壌学は最先端の学問知識だったからでしょう。教育の重みを改めて感じました。



四県体育大会で活躍 野球で優勝



十月二日、群馬県において、新潟県、群馬県、埼玉県との恒例の親善スポーツ大会が開催されました。野球は二回戦では9対0で圧勝し、決勝戦も強打線を抑え、好投手も打ち崩し2対0で勝利し、三年連続の優勝を飾りました。また、バレーボールとバドミントンも準優勝を果たしました。

最先端の経営者の 生の声を聴く

就農を目指す学生たちの意欲を喚起するためには、すでに成功している第一線のプロの農業経営者の生の声を聴くのが一番です。今年も昨年に続いて「就農率向上特別セミナー」を行っています。第二回は(有)信州ファーム荻原の荻原昌真さんから「若い農業者、就農希望者に伝えたいこと」、第二回目は(有)ブラウンエッグファームの滝沢栄喜さんから「たまごを通じたしあわせづくり」と題して経営への想いを語っていただきました。実践をふまえた具体的な話だけにインドネシアで農場を開設した荻原さんには「文化も土地も日本と違う海外で大変だったエピソードを聞かせてください」等、多くの学生が熱心な質問を浴びせ、滝沢さんの講演にも「今回の講演を聞いてよりいつそうやる気が出た」等の感想が出されました。



荻原さん



滝沢さん

三四六さん体験入学



十月十二日、テレビ朝日の「ザ・駅前テレビ」は「スゴイぞ!信州農業ライフ」三四六もういちど大学生になる!!」と題して、テレビタレントの三四六さんが農業大
学校に体験入

学しました。ロケは十月六日に行われましたが、学生たちとともに、秋映を収穫したり、稲を収穫したり、子牛に哺乳をしました。

「秋映はどんな特色があるか」「この花の言葉葉は」といったオフレコの質問にも学生はてきぱきと答え、学生たちのしっかりした受け答えや将来ビジョンに「すごい学校だね」と三四六さんもびっくりされていました。

農産物 マーケティング論演習

十月一日から三日まで、二年生はマーケティング論の実習で、東京の大田市場、銀座の三越デパート、茨城県の農業法人みず

ほ等を見学しました。農家の再生産性を維持するために適度に高い価格を設定する等、現場の苦労を見聞する中で、学生は農業への視野を深めていきました。



かかしコンクールで 最優秀賞を再受賞

今年も長野市松代町東条の児童養護施設「松代福祉寮」主催による「かかしコンクール」が開かれ、昨年が続いて今年も農大の学生たちの作品が第七回最優秀賞を射止めました。作品は大変に好評で、地元のスーパからも「客寄せのために使いたい」との要望があり、「かかし」以上に地元農産物の宣伝のために奮闘していました。



実践経営者コースの開設

卒業後即就農し、企業的農業経営者となる人材を育成するため、就農意欲の高い社会人経験者や大学卒業者等を対象に「実践経営者コース」が新設されます。



三四六さんも期待

「ザ・駅前テレビ」では、平成26年度から新たに開設される実践経営者コースについて、栗田就農推進技幹が三四六さんに説明するシーンも登場しました。経営力の育成を重視し、農地の確保や農機具類の取得まで手厚くサポートすることを聞き、三四六さんは、実践経営者コースの受け入れ体制を大絶賛していました。



教授登場

実践経営者コースでは、技術に加え、経営力、人間力、生活力等これまで農業分野で弱と言われてきた部分に力を入れ、こうした分野を専門とする大学教授や現場で活躍する実務専門家による多彩な講義が設けられる予定です。

消費者行動論

坂上 真介

株式会社市場開発研究所社長



市場開発研究所は、定性調査から定量調査まで多様なニーズに応えるマーケティングリサーチの専門企業です。専門家として、公式統計等の見方、分析、活用方法などをわかり易く解説していただく予定です。

経営戦略論

上原 征彦

明治大学専門職大学院教授



流通・マーケティング分野のシンクタンクである公益財団法人流通経済研究所の理事長です。日本産業界のマーケティングの第一人者として、理論とともに、ケースメソッドによる実践的な講義をお願いしています。

農業経営会計・ファイナンス

森 剛一

アグリビジネス・ソリューションズ株式会社社長



経営コンサルタント、税理士として、多くの農業法人や農業者の農業経営、会計指導に携わっています。農業経営計画を策定して投資の判断や資金調達をするための知識やスキルを学ぶための講義をお願いしています。

農産物マーケティング論

藤島 廣二

東京農業大学
国際食料情報学部教授



卸売市場審議会委員、業務用野菜振興審議会委員等、青果物流通研究の第一人者として、経営力を身に付ける講義をお願いしています。

その他にも茨城大学農学部地域環境科学科立川雅司教授による農村社会論、長野県中小企業診断士協会会長である滝澤恵一先生によるリーダーシップ論等、魅力的な講義が幅広く予定されています。